
失恋

りんも

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

失恋

【Nコード】

N7372P

【作者名】

りんも

【あらすじ】

片想い中の女の子は、誰でもハッピーエンドを望むよね・・・でも、

この小説は、ハッピーエンドにはならない片想い中の女の子のお話です！！

(前書き)

初めて書く小説なので、間違いが多いかもしれませんが、そこらへんはご了承ください。

朝、とても眠かった。なのに、学校には必ず行きたかった。だって、好きな人がいるから。今、私は片思い中です。だんだん彼と仲良くなってきたの。よく他の人を混ぜて一緒に遊んだりした。登校中、

「ハナ〜!!!」

つと彼が私の名前をよんだ。そう、私の名前は「山本 葉菜」って言うんだ!

「あっ、おはよう!つばさ」

つと私は片思い中の彼の名前、「大空 翼」を呼びながらあいさつをした。朝の会話はそれだけだった。翼は女の子にもモテモテだったが、男子からはもっと人気があった。あっちこちから、翼を呼ぶ声が聞こえる。

授業が始まった。もちろん片思い中の女の子だから授業のことなんてまるっきり頭に入ってはこない。ずっと翼のことを考えながら、いろいろ説明する先生の話聞いていたら、突然

「おい!!! や〜ま〜も〜と!ちゃんと授業の話聞いてないだろう! バツとして今日の放課後、居残りだ!!!」 つと先生の怒鳴り声が聞こえてきて、みんなの笑い声が聞こえた。私は、ハツとして、翼の方を向いた。翼も笑っていた。私は、恥ずかしくて顔が真っ赤になり、涙が出てきそうだった。

キンコンカーンコン・・・チャイムがなり終わり、居残りの時間となった。もともと、私は、勉強は苦手だった。そこへ、翼が忘れ物を取りに来た。

翼は、「おい! まだのこってんのか!? 早く終わらせろよ! ハナと遊びたいんだしさ」

葉菜は、「だって・・・分からないんだもん!」

その後、翼が少し考えた後面倒くさそうに

「まったく、教えてやるからよ! どこがわからないんだ?」

翼のおかげで、問題がスラスラと解けてやっと帰れることになった。私と翼は帰る方向が同じなので、一緒に帰った。帰る途中、沈黙が続いた……「あのさあ……」っと最初に口を開いたのは翼だった。

「俺、ずっと考えてるんだけど……」

私は、翼が話すことが全く予想できずに

「何？」っと答えた。

翼が少し恥ずかしそうに、

「好きな人ができたりとかしたら、相談……してもいいよな？」
私は、驚いた。こんがらがってしまった。でも、その雰囲気連れられて、

「私に任せなさい！」

っと言ってしまった。その後、翼は「ありがとう」と言って走って帰って行った。

家に着いた私は、後悔した。なんでものときあんなこと言っちゃったんだろう……

次の日の朝、私は、とぼとぼ歩いていた。すると、翼が私の顔を覗き込んだ。

「おい！どうしたんだ！？なんか、元気ないぞお??」

私は、びっくりして翼を突き飛ばしてしまった。

「あ……」

「いってえなあ……なにすんだよっ!!おまえ、朝から感じわりいぞ!!」

翼は、怒りながら走って教室に行ってしまった。私は、親友の「山田 優奈」にこれまでの出来事を話した。すると優奈は、

「……そっかあ、でもこれからあやまりに行けばいいじゃん……
……ファイト！ハナ!!」

「うん……ありがとう!!」

そこで、私はあやまるきっかけを探そうと翼の様子を見ていた。何度と言うチャンスはあったけれど、なかなか言い出せなかった。私

が、オドオドしているせいか、翼はさっきよりも機嫌が悪くなっていた。それから、1週間が過ぎて行った。また、私は先生に怒られて居残りをしていた。すると、教室のドアが開く音がした。翼だ！また忘れ物を取りに来たみたいだ。私はあやまるチャンスは今しかない！！っと思ひ、

「あ、あのさあ・・・」

翼が後ろを向いて立ち止った。そして、怒りながら言った。

「なに？」

「あ・・・あの・・・あのさあ、こ、こここここの前はご・・・ごめん・・・ね。・・・えっと、急に顔を近づけてきたからびっくりしちゃってさ・・・」

私は、すごく噛みながら話してしまった。翼は、にっこり笑って

「まだ気にしてたのかよ？俺が怒ってたのは、ハナが、俺の話を聞こうとしてくれないからだよ」

「え？」

「せっかく俺の好きな人・・・できたのに・・・」

沈黙が続く。私は、考えていた。翼のことが好きなら、翼の幸せを願ったほうがいいんじゃないか・・・

「翼：私に任せて！！でっでも、私の相談も聞いてよね！！」

「よかった。俺・・・ハナにしか話せないからさ・・・じゃあな！！」

翼は、走って家に帰って行った・・・私も帰った。

「ただいまあ・・・」

お母さんは、なんだかあわてている感じだった。「どうしたの」っ
と尋ねてみた。すると、思いもよらない言葉が返ってきた。

「ハナ：怒らないで聞いてね：今度：この家を引っ越すことになったの：」

「え！？どこに？？いつ？？」

「明後日・・・お父さんの仕事の都合ですごく遠いところに引っ越すの」

「・・・そう・・・」

私は、黙って自分の部屋に入ってその日は寝てしまった。

次の日、私と翼は一緒に帰ることになった。

「なんか、俺さあハナと一緒にいるとすぐ落ち着くんだよなあ・・・だから、ずっと一緒に下校したりしたいよな♪」

私は、その言葉を聞いて、涙が出てきて泣き崩れてしまった。

「!?!?おい?どうしたんだよ?」

翼はすぐくあわててた。私は、引越しをすることを話した。

「そっかあ、でも一生会えないわけじゃないんだろ?俺のメルアド教えるからよ!」

「ありがとう」

そうだ・・・今しかない!!ふられてもいい!!この気持ちをきっぱり終わらせたい!!

「ねえ、翼に言っておきたいことがあるんだけど・・・」

「なんだあ??かしこまっちゃって・・・」

「好き!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「へ???」

「べべべ別に、答えは知ってるから言わなくていい!!」

沈黙が続く・・・

「・・・あのさあ、何て言ったらいいかわからないけどさあ、俺のこと好きになってくれてありがとな!」

「・・・相談したかったら、メールじゃんじゃん送ってよね!!」

私は、涙を拭きながら言った。

「wwああ・・・」

次の日の朝：荷物をまとめてこの家を出ようとする、

「おい!!!!!!!!!!まてよ!!!!見送りくらいさせろって!!!!!!」

「またねえ!!!!!!」

私は、笑顔で手を振った。

私の片想いは、終わった。

(後書き)

みなさん、最後まで見ていただいております!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7372p/>

失恋

2010年12月30日20時30分発行